



病院長 青野 只明

ごあいさつ

時代が平成から令和へ移りましたが、私どもの活動は変わることなくくすべての人が地域でしあわせに生活できる社会の実現の理念のもと、医療・福祉・介護の3つの柱で社会貢献への取り組みを続けております。

その医療の中心である回復期リハビリテーション病棟は、急性期と生活期との橋渡しとなるべく機能回復・自立度向上をめざす期間を担っております。

ベッド数116床に、日本リハビリテーション医学会専門医3名、リハビリ認定臨床医3名、整形外科専門医1名、神経内科専門医1名、呼吸器内科専門医1名を配置し、急性期病院からの迅速な受け入れに対応できる体制を整えております。

患者層も若年から高齢者まで幅広く対応しており、電気治療、神経筋促通法、ロボット機器などをはじめ様々な治療を併用した機能回復リハビリにも積極的に取り組んでおります。特筆すべきは、自動車運転再開希望者には運転適性評価・当センター内運転コースでの実車評価などを踏まえて、最終判断を仰ぐ大分県免許センターとも密に連携がとれていることがあります。また就労・社会復帰希望者に対しては当センター障害者支援施設くにじと連携して、とぎれない支援体制があることなどは、当センターの特色のある強みであります。

扇山・鶴見岳を背景に四季を感じとれる広大な敷地のなかに、広々と明るく清潔な病室やリハビリルーム、最先端のリハビリ機器、温泉大浴場、温水プール、体育館、別府湾を見渡せるラウンジがあります。

また、別府インターチェンジから車で約5分程度の立地など利用関係者にとって、便利で満足いただける環境・設備も整えております。

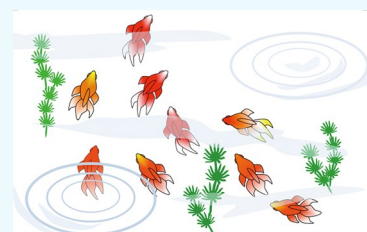
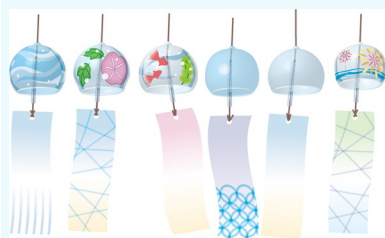
急性期病院からの紹介のもと、主に脳卒中、頭部外傷や大腿骨骨折、脊髄損傷などの方々のリハビリ医療を実施しております。当センターでは入院中に対応困難な病状変化が生じた際も、迅速に急性期病院へコンサルトする体制をとっておりますのでご安心いただければと存じます。

職員一同、知識や技術はもとより、人間としての基本的なマナー教育、職員自らも仕事を通じて人間的に成長していける職場づくりにも心掛けております。

利用者からのご意見には迅速に対応し、障がいをもたれた方々に真に寄り添い、リハビリに専念していただけるよう、全力で支援させていただきます。

当センターは、これからもリハビリ専門病院として本物のリハビリを提供すべく日々努力を怠らず、できる限りの機能回復・自立度向上をめざしております。

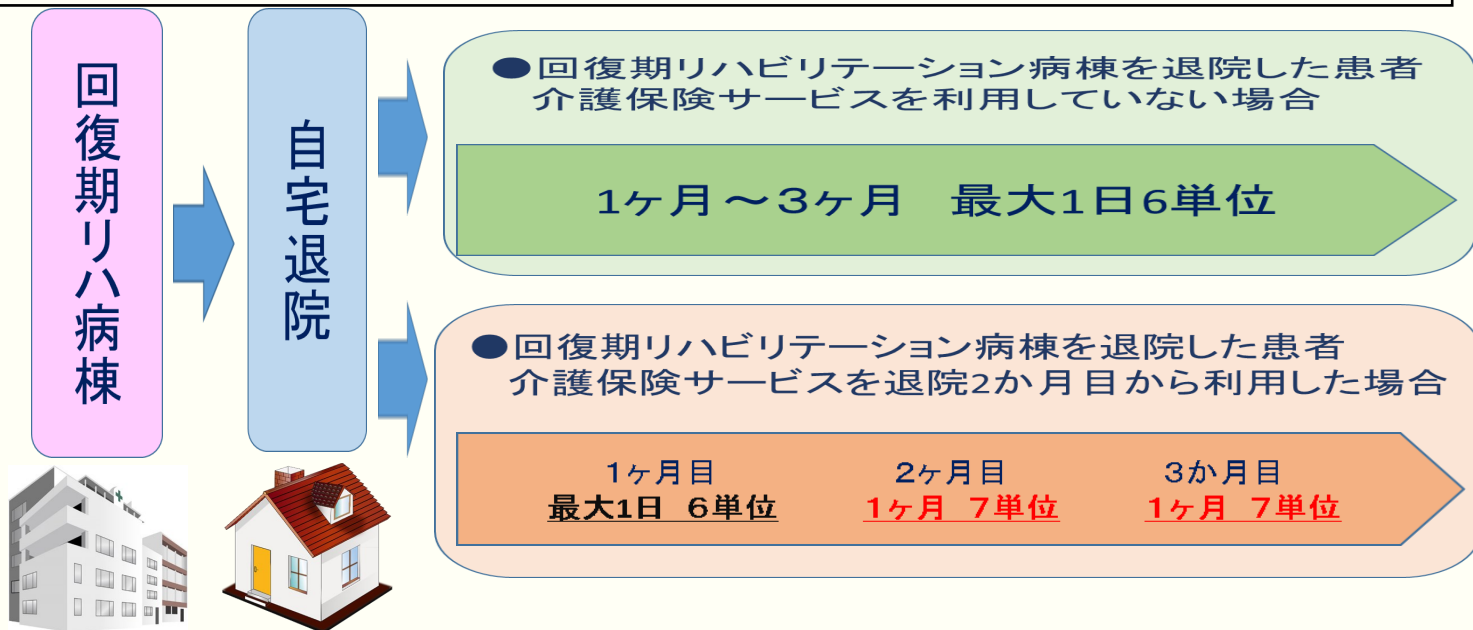
介護が必要な方には適切な介助方法を指導し、生活期・維持期へ不安のない形で連携をはかってまいりますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



外来リハビリテーションのご案内

入院でのリハビリテーションを終えた方や脳卒中等の後遺症でお困りの方を対象に外来リハビリの実施や各種専門外来での相談・治療を行なっています。

●回復期リハビリテーション病棟を退院された方



回復期リハビリテーション病棟を退院された患者さんは、**医学的に外来リハビリの必要性を医師が判断した場合に限り**退院後、3ヶ月間外来でリハビリを継続的に受けることができます。

介護保険でのサービスを利用される場合は、併用しながら3ヶ月間の外来リハビリ利用が可能です。

●過去に脳卒中や事故等で障害があり、日常生活や社会生活でお困りの方

専 門 外 来 のご案内

■ニューロリハビリテーション外来

当センターでは従来のリハビリテーションの手法に合わせて、機能回復を促進させるための最新の機器（ロボット・電気刺激）を併用した治療を提供します。

■ 対象となる方

脳や脊髄の損傷によって手足などに障害があり、日常生活や社会生活を送るうえでお困りの方。

■ 高次脳機能外来

高次脳機能障がいとは、脳卒中や事故等の後遺症で**記憶力の低下、注意力の低下、感情や行動の抑えが効かなくなる**などの症状が出現します。これらの症状は、外見からは分かりにくいので、周囲の理解が得られにくいという特徴があります。

■ 対象となる方

脳卒中や事故等で過去に脳損傷を来した方
脳出血 脳梗塞 くも膜下出血 脳炎 脳腫瘍
低酸素脳症 脳挫傷等

ニューロリハビリテーション 外来



手・足を柔らかくし、もっと
使えるになりたい方

高次脳機能外来



注意・言語・記憶・感情
などに障害のある方

摂食・嚥下外来



食べる事、飲み込む事に
悩みがある方

装具外来



足の装具を作りたい
装具が合わなくなった方

*症状等により対象とならない場合があります

TEL 0977-67-1711 左記までお気軽にお問い合わせください。別府リハビリテーションセンター外来課 担当 安藤・林



ウェルウォークの特徴

ハーネスで転倒を防止しつつロボット脚が麻痺した脚の振り出しをアシストする

足元・前面・側面に設置された3台のカメラにより歩行の様子が詳細にわかる

リハビリ初期から自然なかたちで歩行練習ができる

患者さんも療法士もリアルタイムで確認できる

アシスト量や歩行速度などの難易度が調整でき、効果的な練習内容の設定ができる

「Welwalk(ウェルウォーク) WW-1000」

ロボットリハビリ¹⁾という言葉をご存知でしょうか。直訳すると「ロボットテクノロジーを用いたリハビリテーション」という意味になります。このロボット技術を応用したリハビリテーションは、身体機能の早期改善や回復、機能代償や補助による生活動作の獲得などを目的として行われます。

別府リハビリテーションセンターでは、令和元年6月に歩行のリハビリテーション支援を行うロボット「ウェルウォーク WW-1000（以下、ウェルウォーク）」²⁾を導入しました。

ウェルウォークは脳卒中などの病気やケガによって、歩行することや身体のバランスを保つことが困難となった方に対して、早期から歩行練習を提供することができるロボットです。

写真のように、トレッドミル（ウォーキングマシン）と、患者さん用・療法士用それぞれのモニター、身体を支えるハーネスで構成され、利用する患者さんは、膝の曲げ伸ばしをサポートする「ロボット脚」を装着してリハビリテーションを行います。

1) 社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団の商標登録

2) トヨタ自動車と藤田医科大学との共同開発商品（第8回ロボット大賞受賞）

「今年も新しい仲間が増えました！」

今年も別府リハに19名の新しい仲間が加わりました。(看護師3名、介護福祉士1名、理学療法士1名、作業療法士4名、言語聴覚士1名、臨床検査技師1名、薬剤師1名、社会福祉士4名、職業指導員1名、事務員2名)
別府リハが全職種・全部署共通で行う新採用職員研修は、グループワークや演習を通して社会人としての心構えや接遇マナーを学び、これからの自分に求められる役割を理解して自ら進んで行動できるようにしていくプログラムであるのが特徴です。今年もさまざまな職種がチームで協力してグループワークやビジネスゲームを行い、問題解決に取り組む様子が見られました。

1 社会人としての基礎力を培う！

「接遇マナー」や「報・連・相」「時間管理」といった、社会人として必要な心構えや基礎力を学びました。最終日の清掃プロジェクトでは数日前から計画を立ててチーム一体で会場をピカピカに磨きあげました。



2 PDCAサイクルをくり返し、柔軟な思考へ！

お互いの意見を尊重しながらチームとして意見をまとめていくことの難しさを体験しました。さまざまなワークを通じて、PDCAサイクルを回した仕事の進めかたを学び、より良い結果につなげるために、成功しているチームのやりかたを真似する、といった柔軟な思考も学びました。



3 さまざまな考えかたを共有し、視野を広げる！

倫理のグループワークやチーム医療論などでは、それぞれの専門職が大切にしている考えかたを知り、職種による視点の違いを学びました。患者さんを中心としたチームアプローチのありかたについて、より深く話し合うことができました。



5 「求められる自分の役割」を発表し決意表明！

最終日には研修を通して学んだことから「社会人・別府リハ職員として求められるものとは？」と題したグループ発表を行いました。修了式では理事長やセンター長、部長の前で一人ひとりが決意表明を行い、笑顔で5日間の研修を終えました。



4 体験や施設内見学を通して意識を高める！

専門職の先輩から車いすサポートのしかたを教わりました。どのように関われば患者さんは安心なさるのか学ぶなかで、「すべての職種が別府リハの医療従事者である」という自覚がめばえしました。

また、回復期リハ病棟や障害者支援施設、デイケアなどすべての施設内見学を通して別府リハ職員としての意識を高めました。



別府リハにはすべての職種・階層の成長を支援する教育システムがあります。新採用職員もこれから1年間、社会人として、また別府リハ職員としての基礎研修で学び、配属先でも専門職としての教育を受けていきます。新採用職員のこれからの成長にどうぞご期待ください。

経営管理部 人材開発・広報課 岩田裕也



入退院支援看護師の紹介

今年度、地域連携室は入退院支援看護師が1名増員となり、2名体制になりました。今まで以上に入院前訪問を積極的に行い、患者・ご家族が安心して当センターへ入院していただけるよう努めるとともに、紹介元病院とは『顔の見える連携』を強化していきたいと思います。

退院支援では、患者様が住み慣れた地域での生活再開ができるよう医療チームの一員としての役割を自覚し、支援を行ってまいります。

村山陽子 高月智恵子



発行： 社会福祉法人 農協共済 別府リハビリテーションセンター

日本医療機能評価機構認定 / 日本リハビリテーション医学会認定研修施設 / 日本脳卒中学会認定研修教育病院



〒874-8611 大分県別府市鶴見1026-10

TEL0977-67-1711 FAX0977-67-1712 <https://brc.or.jp>